

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第300回委員会議事録

1. 日 時 平成 23 年 11 月 18 日 (金) 9:30~17:00
2. 場 所 東京大学山上会館 (東京都文京区本郷 7-3-1) 大会議室
3. 出席者 49 名 (順不同・敬称略)

委員 長： 寺井隆幸 (東大)

主 査： 川口雅之 (大阪電通大)、児玉昌也 (産総研)、森田登 (日本工大)

幹 事： 稲垣道夫 (北大名誉)、安田榮一 (東工大)、豊田昌宏 (大分大)、
吉田明 (東京都市大)、小林知洋 (理研)

委 員： 阿久沢昇 (東京高専)、飯島孝 (新日鐵)、岩下哲雄 (産総研)、
蛸谷玄太 (コバレントマテリアル/代理：吉光大志)、小田廣和
(関西大)、鏑木裕 (東京都市大)、川野陽一 (新日鐵化学)、京谷隆
(東北大)、近藤純子 (東洋炭素/代理：森下隆弘)、塩山洋 (産総研)、
柴田大受 (原子力機構)、白石稔 (東海大)、園部直弘 (クレハ/代
理：近藤)、羽鳥浩章 (産総研)、福田敏昭 (東海カーボン/代理：
鶴田圭子)、向井紳 (北大)、武藤浩行 (豊橋技科大)、持田勲
(九州大/代理：尹聖昊)、山下良 (新日本テクノカーボン)、
大平雅彦 (富士カーボン製造所)、土屋広志 (鉄道総合技術研究所/代
理：宮平)、仁平徹 (日立化成工業)、早川忠明 (日本工営)

委員 外： 奥達雄 (茨城大)、押田京一 (長野高専)、木村脩七 (東工大)、
中村和正 (福島大)、西澤節 (神戸製鋼)、菱山幸宥 (東京都市大)、
山田能生 (産総研)、斉藤幸恵 (東大)

同伴者他： 棚池修 (産総研)、吉澤徳子 (産総研)、大内康裕 (大分大)、中山航
(東北大)、王正明 (産総研)、久保史織 (産総研)、曾根田靖 (産総研)、
小村伸弥 (帝人)、友納茂樹 (帝人)

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

第 299 回議事録（案）を承認した。A 分科会議事録については以下を修正する。

4 行目および 7 行目 I/Ig → Id/Ig

4.2 第 117 委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

該当なし

(b) 300 回記念シンポジウムについて

11/17（木）に開催した。Dr. Hui-Ming Cheng（中国）、Dr. Kap Seung Yang（韓国）、Dr. L. M. Manocha（インド）に加え、日本からは京谷委員（炭素材料学会長）が講演を行った。参加者は 45 名（講演者を含む）であった。

(c) 第 3 回日独合同セミナーについて

岩下委員より以下の説明があった。

- ・日程は Carbon2012(Krakow, Poland)の翌週 6/25 から 2 日間を予定。
- ・日本側基調講演者（2 件）は依頼済み。
- ・発表申込締切 12 月 26 日、アブストラクト締切 1 月 13 日。

(d) 量子ビーム融合化利用研究について

量子ビーム融合化利用研究に関する先導的研究開発委員会（学振・平成 22.04.01～25.03.31）の第 9 回委員会(9/29)にて H24 年度の科研費申請方針を議論。H23 は装置開発グループ、材料測定グループ(117 委が該当)を並列に扱っていたが、H24 は装置開発グループだけで申請を行い、次年度以降に材料測定グループがいずれかの装置を使う公募研究に応募する形となった。

(e) 産学連携委員会委員長会議について

- ・日時：平成 23 年 11 月 7 日（月）15：00～17：20（17：30～18：30「懇談会」）
- ・場所：東京ガーデンパレス（2 階）高千穂
- ・安田幹事が代理出席
- ・会員減少問題、委員会における守秘義務等の議論があった。
- ・117 委員会については 2016 年 9 月に継続に関する審査が行われる

(f) 次回以降の予定について

H24 第 1 回（301 回） 4 月 13 日（金）東工大（会場担当：榎幹事）

- H24 第 2 回 (302 回) 7 月 13 日 (金) 東京都市大 (会場担当: 吉田幹事)
H24 第 3 回 (303 回) 9 月 14 日 (金) 東大 (会場担当: 寺井委員長)
H24 第 4 回 (304 回) 11 月 15 日 (木) 16 日 (金) 産総研 (会場担当: 児玉幹事)
(15 日は特別講演会、16 日は ABCD 合同)

(2) 分科会報告

- (117-300-A-1) エネルギーデバイス応用に向けた均一なグラフェンディスクの製造
Donghui Long, 宮脇仁, 持田勲, ○尹聖昊 (九大先導物質化学研)
- (117-300-A-2) グラファイトフィルムにおける室温フォノン平均自由行程
○菱山幸宥¹, 吉田明², 鎗木裕³,
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大工³)
- (117-300-A-3) 単一配向した楕円形状超極細黒鉛繊維
○安田榮一¹, 大谷朝男¹, 小村伸弥², 友納茂樹², 西澤節¹, 永田信輔¹,
赤津隆³
(東工大イノベーション推進体¹, 帝人融合研², 東工大応セラ研³)
- (117-300-B-1) ピッチ系炭素繊維のインターカレーション
○大内康裕, 衣本太郎, 津村朋樹, 豊田昌宏
(大分大院工)
- (117-300-B-2) 乱層構造炭素へのカリウム挿入と水素吸着挙動
梅田礼二¹, 荏畑さつき¹, 玉田耕治¹, ○阿久沢昇¹, 松本里香²,
曾根田靖³
(東京高専¹, 東京工芸大², 産総研³)
- (117-300-C-1) 垂直配向した炭素ナノ細孔を用いた直接電子移動型酵素電極の作製
○中山航¹, Castro Muniz Alberto¹, 干川康人¹, 京谷隆¹, 伊藤徹二²
(東北大多元研¹, 産総研²)
- (117-300-C-2) X 線 CT 法を用いた微粒等方性黒鉛 (IG-110, IG-430) の特性評価
~超高温ガス炉(VHTR)開発における研究~
角田淳弥¹, ○柴田大受¹, 藤田一郎², 國本英治², 山地雅俊²,
衛藤基那², 小西隆志², 沢和弘³
(日本原子力研究開発機構¹, 東洋炭素 (株)²)

- (117-300-C-3) Nanostructured Carbohydrate-Derived Carbonaceous Materials
○久保史織¹, Robin J. White², 吉澤徳子³, Markus Antonietti²,
Maria-Magdalena Titirici²
(産総研環境管理技術研究部門¹, Max-Planck Institute of Colloids and
Interfaces², 産総研エネルギー技術研究部門³)
- (117-D-115-1) 大型交流回転機におけるカーボンブラシ・鉄リングの摺動集電メカニズム
の研究
○森田登
(日本工業大)
- (117-D-115-2) IEC/TC2/MT14 ブラシ関係規格改定方針確認打合せの仏メルセン社出張
報告等
○森田登
(日本工業大)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：阿久沢委員（運営委員長）より以下の報告があった。

- (a) 現在会員数（10/18 現在） 正会員 764 名 学生会員 232 名 合計 996 名
賛助会員 53 社 58 口
- (b) スキルアップセミナー 燃料電池開発の現状とカーボン材料 2011 年 9 月 2 日（金）
総評会館 参加者 41 名
- (c) 10 月セミナー 1 日でわかるグラフェン入門 2011 年 10 月 14 日（金）
日本教育会館 参加者 52 名
- (d) 2011 年度評議員会 11 月 18 日（金）17:30 フォーレスト本郷
- (e) 第 38 回炭素材料学会年会（名古屋大学豊田講堂）2011 年 11 月 29 日（火）～12 月 1
日（木） 参加登録締切：11 月 15 日（クレジットカードの場合 11 月 18 日）
口頭発表は PC 持参
- (f) 1 月セミナー 日本化学会館（2012 年 1 月 20 日（金））
「次世代リチウム二次電池のための炭素材料の現状と展望」
- (g) 2012 年度予算案：基本的に 2011 年度予算と同様。

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

- (h) 250 号は 11 月 15 日に発行済み

(i) 1月より編集部が国際文献印刷社に移行

(2) 国際会議関係、Carbon 誌関係

特になし

(3) その他

寺井委員長より、炭素材料学会ならびに産業界との協力関係をさらに深いものにするため、京谷委員（東北大）、金子委員（炭素協会）に来年度から幹事を委嘱する旨報告があった。

(以上)